

V 健やかな「都」をつくる

～健康寿命日本一を目標に、高齢者、障害者を含む、誰もが健やかに暮らせる地域をつくる～

14. 健康寿命日本一を目指した健康づくり

- (50) 健康増進施策の推進
- (51) がん対策の推進
- (52) 高齢者の社会参加といきいきとした活動の促進

15. 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実

- (53) 国保の県営化の円滑な推進
- (54) 地域医療構想の推進、医師確保計画の推進
- (55) 新型コロナウイルス感染症対策
- (56) 医療費適正化
- (57) 地域包括ケア・在宅医療の充実
- (58) 県立医大の移転、医大病院施設・新外来棟の整備
- (59) 西和医療センターの移転・再整備の検討

16. 福祉の充実

- (60) 日本一福祉の進んだ地域を目指す
「福祉の奈良モデル」の構築
- (61) 重症心身障害児(者)の地域生活の支援
- (62) 出所者の更生・就労支援

17. だれもがいつでもどこでもスポーツできる環境づくり

- (63) だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる地域づくり
- (64) 奈良県国民スポーツ大会・
全国障害者スポーツ大会開催に向けての検討
- (65) まほろば健康パークの機能強化

14. 健康寿命日本一を目指した健康づくり

(50) 健康増進施策の推進

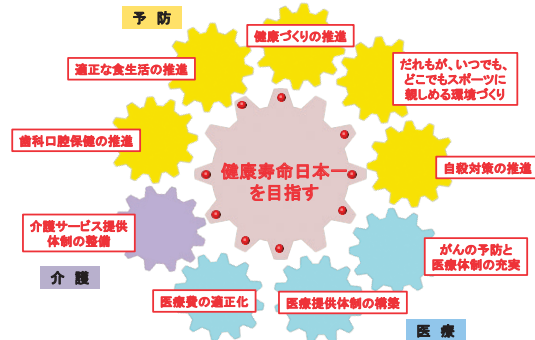
ここまで良くなってきました

「健康寿命日本一」の目標達成を目指して、健康、医療、介護分野の計画を連動させた健康増進の取組を進めてきました。

【奈良県の都道府県順位(令和3年)】

健康寿命	平均余命	平均要介護期間
男性 3位 女性21位	男性 3位 女性10位	男性39位 女性43位

○「なら健康長寿基本計画」において、関連領域ごとに目標(KGI・KPI)を設定して、施策を実施しています。



○健康寿命の延伸に寄与する減塩・野菜摂取の普及啓発を推進



スーパーの野菜売り場で啓発(イオンモール大和郡山)



減塩・野菜たっぷり弁当の開発支援(奈良コープ産業)

もっと良くするために

健康寿命の延伸に寄与する分野別の取組を強力に推進します。

減塩・野菜摂取の推進

- 生涯にわたる健全な食生活の実践に向けた食育の推進
- スーパーマーケットとの協働による「中食」の減塩・野菜増量
- 栄養管理と利用者ニーズに対応ができる配食事業者の増加



運動の推進

- 「おでかけ健康法」の普及・拡大のために、県内スーパーや市町村等への働きかけ

1日の「歩数」・「中強度の歩行」と病気予防の関係

予防できる病気	歩数	うち中強度の歩行時間
①寝たきり	2000歩	0分
②うつ病	4000歩	5分
③認知症・要介護	5000歩	7.5分
④動脈硬化・骨そしょう症	7000歩	15分
⑤高血圧症・糖尿病・脂質異常症	8000歩	20分

おでかけ健康法(青柳幸利医学博士監修)

- 肥満や運動不足等の健康課題の多い「働き盛り世代(J世代)」を対象に、事業所等と連携した運動の習慣づくりを推進

がん検診の推進

- 受診率及び検診精度の向上

たばこ対策の推進

- 禁煙支援の充実
- 受動喫煙防止に関する普及啓発の強化
- 受動喫煙防止対策に向けた相談支援

自殺対策の推進

- 若年層や自殺未遂者への支援など自殺者数減少に向けた取組の推進

要介護状態となることの予防

- 住民運営の通いの場の普及拡大等による介護予防の推進



通いの場

令和5年度予算案 93百万円
令和4年度2月補正予算案 8百万円

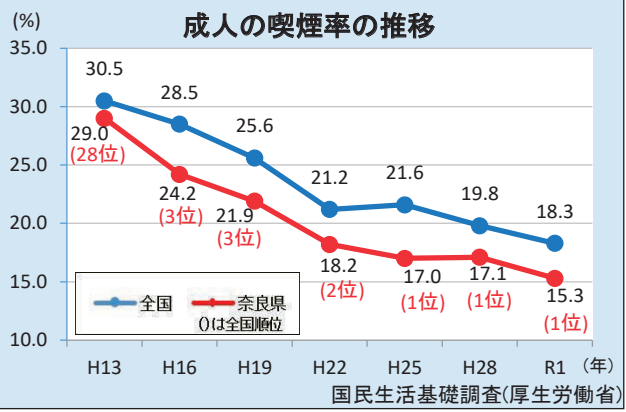
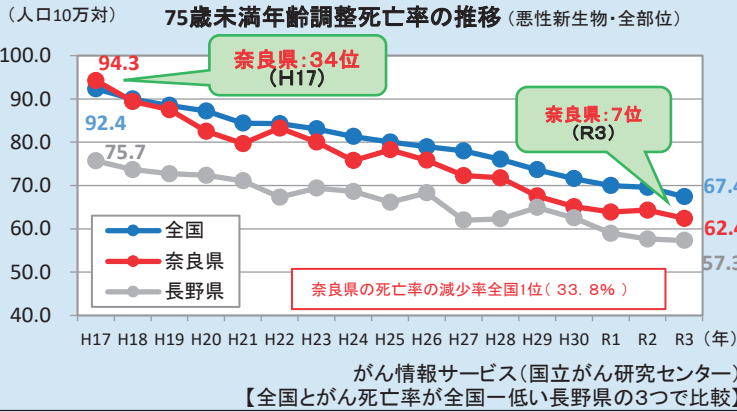
(51) がん対策の推進

ここまで良くなってきました

奈良県のがん死亡率は62.4となり、この16年間で大幅に改善し、死亡率の減少率は33.8%で全国1位となっています。

※死亡率の減少率: 全国 27.1% 長野県 24.3%

あらゆるがんのリスク要因といわれている喫煙率は、減少傾向にあり、平成25年以降、本県の喫煙率は全国一低くなっています。



もっと良くするために

「がん死亡率が全国一低い県」「がんにならない、がんになっても安心できる奈良県」を目指します。「データに基づいたがん対策」「働き盛りの受診率向上に向けた取組」「がん医療の質の向上」を柱にがん対策に取り組むため、「第4期奈良県がん対策推進計画」を策定します。

がん予防・早期発見

- エビデンスに基づいた市町村のがん対策の推進
- 個別の受診勧奨・再勧奨に取り組む市町村への支援など、がん検診受診率向上となる取組の強化
- 「がん検診を受けよう！」奈良県民会議等を通じた啓発活動の展開
- 受動喫煙防止、地域における禁煙支援体制の充実



「がん検診を受けよう！」奈良県民会議 講演会、がん検診啓発動画

がん対策を支える基盤整備

- データを活用した効果的ながん対策の推進
- 子どもの頃からのがん教育の推進
- がん登録の推進
- 条例や計画に基づいたがん対策の総合的な推進

がん医療

- がん医療提供体制の充実
- がんゲノム医療提供体制の強化
- 患者目線でのがん診療情報のさらなる充実
- がん医療と生殖医療の連携

がん患者等への支援

- ライフステージ等に応じた相談支援・情報提供、がん患者の就労を含めた社会的問題の解決にんよう
- 妊孕性(妊娠するために必要な力)温存療法を希望する患者の経済的負担の軽減など、小児・AYA世代※のがん患者等への支援の推進
- アピアランス(がんの治療等に伴う外見の変化)ケアの支援

※AYA世代とは

Adolescent and Young Adult(思春期・若年成人)の頭文字をとったもので、主に、思春期(15歳~)から30歳代までの世代を指す。

令和5年度予算案 141百万円

(52) 高齢者の社会参加といきいきとした活動の促進

ここまで良くなってきました

高齢者が奈良暮らしをさらに楽しんでいただけるよう、いきいきシニアのさらなる社会参加、元気シニアの就労促進など、高齢者が地域で元気に活躍できる奈良づくりに取り組んでいます。

高齢者の社会参加の重要性の啓発と、活動を支える人や団体の表彰を実施し、ならシニア元気フェスタを3年ぶりに開催するなど、コロナ禍においても高齢者が活動できる機会を作っています。

○ スポーツ・文化活動や学び、就労の機会づくり



ならシニア元気フェスタ
(R4年度は2,036人が参加)



ねんりんピックかながわ2022への
参加(選手138人を派遣)



シニア県展
(R4年度は293点の作品を展示)



県老人クラブ連合会が行う
講師派遣事業等への支援



介護分野への就労入門研修
(R4年度までに107人が受講)

○ 県民への啓発



ならビューティフルシニア表彰
(R4年度までに70人を表彰)



介護実習・普及センターにおける
体験講座の実施

○ 人材の育成



老人福祉功労者表彰
(毎年20人程度を表彰)

もっと良くするために

高齢者一人ひとりの健康長寿と心豊かで満たされた人生の実現のため、令和5年3月に「奈良県高齢者が社会参加し、いきいきと活動することを促進して活力ある長寿社会の実現を図る条例」を制定します。関係団体等と連携・協力して、高齢者が地域社会において孤立することなく人とつながり、社会参加し、いきいきと活動することができる環境づくりや高齢者の主体的かつ自発的な行動の促進に、より一層取り組みます。

施策展開の柱

- 高齢者が気軽に参加できる活動の場・機会の創造・提供及びマッチング
- 高齢者の社会参加等とその環境づくりに協力することの重要性を県民に啓発
- 高齢者の活動を促進し、環境を整備する人材及び関係団体等の育成・支援



すこやか長寿センターにおける
マッチングの充実



地域や世代を越えた交流の場の創造
(県老人クラブ連合会が新たに行う
eスポーツ体験会の実施を支援)

令和5年度予算案 62百万円

15. 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実

(53) 国保の県営化の円滑な推進

ここまで良くなってきました

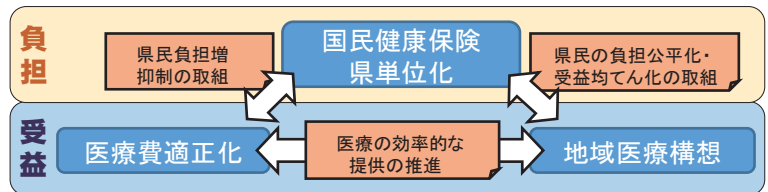
国保の県単位化の奈良県の取組は「奈良方式」と言われ、**全国で最も進んだもの**と言われています。

県営化前の課題

- 県営化前の国保は、保険財政基盤が脆弱な小規模保険者が多く、地域ごとの保険料格差が大きい、保険料水準が安定しないなどの構造的課題が存在

本県取組の主な特徴

- 国保財政運営、医療費適正化、医療提供体制の3つを一体として、受益と負担の総合的マネジメントを推進



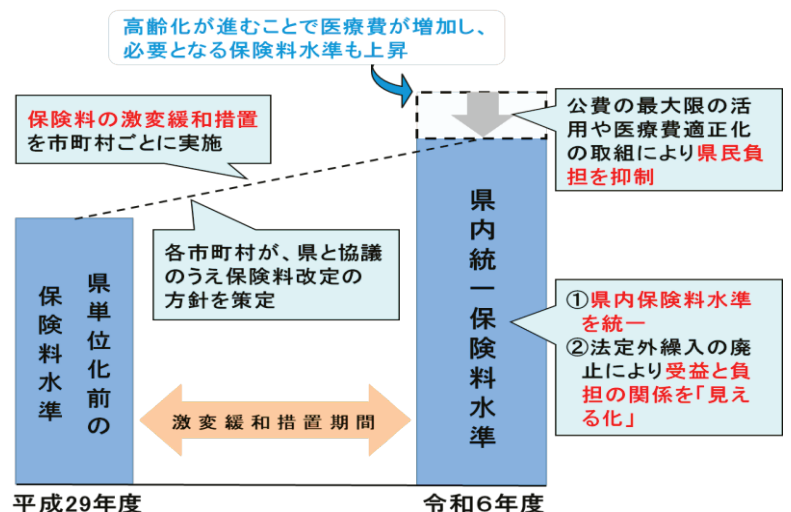
本県取組の主な内容（県・市町村合意）

- 「同じ所得・世帯構成であれば、県内のどこに住んでも保険料水準が同じ」となる県内保険料水準の統一(R6年度完成)
- 保険料及び一部負担金の減免等基準の統一(R3年度適用)
- 納付金算定に用いる収納率(標準的な収納率)の見直し(R3年度適用)
- 保険料軽減目的の法定外繰入等の解消(H30年度解消)
- 国保連合会内に国保事務支援センターを設置(H30年度設置)

もっと良くするために

令和6年度に県内保険料水準を統一し、県単位化を完成します。統一後も国保の安定的な運営を推進するため、引き続き市町村との協議・合意形成を進め、令和5年度には次期国保運営方針を策定します。

- 県内保険料水準統一後の国保運営に係る諸課題への対応
- 第4期医療費適正化計画と統合的な国保医療費の将来推計
- 安定的な国保運営のため、医療費適正化や収納率向上に向けた取組の推進
- 被保険者の利便性向上に資するよう、更なる市町村国保事務の共同化・標準化の検討



令和5年度予算案 128,300百万円
令和4年度2月補正予算案 150百万円

(54) 地域医療構想の推進、医師確保計画の推進

ここまで良くなってきました

「断らない病院」と「面倒見のいい病院」の機能分化・連携を進めてきた結果、医療機関の機能は向上しています。

「断らない病院」の機能向上

○「救急搬送時、医療機関への受入照会回数が4回以上の割合」は4.3ポイント改善し、全国順位も上昇6.2%(H28年) → 1.9%(R2年)

全国順位 47位 → 22位

○「救急患者の搬送時間」は2.3分改善し、全国順位も上昇

43.0分(H28年) → 40.7分(R2年)

全国順位 41位 → 31位

「面倒見のいい病院」の機能向上

○「在宅療養支援病院の届出数」は9病院増加9病院(H28年) → 18病院(R4年)

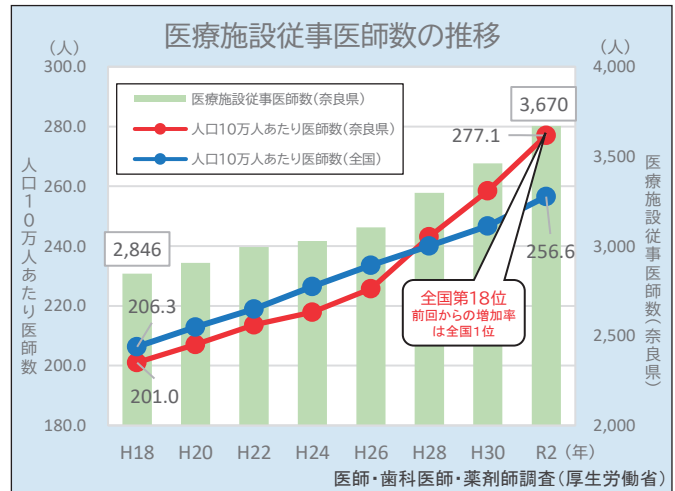
○「訪問看護ステーションを設置する病院数」は10病院増加

20病院(H28年) → 30病院(R4年)

県内の勤務医師の確保に努めてきた結果、人口10万人あたり医師数は、前回より18.6人増え全国平均を上回る状態です。

奈良県の人口10万人あたり医師数 277.1人(全国18位)

<参考> 全国 256.6人



もっと良くするために

将来の医療需要に対応した、持続可能で効率的な医療提供体制を構築するため、国や県の医療DX推進の方針とも連動し、「エビデンスとナッジ」の手法で「断らない病院」「面倒見のいい病院」の更なる機能強化に取り組めます。

○指標により「面倒見のいい病院」の医療機能の見える化を実施、優良事例を病院間で共有

○「断らない病院」と「面倒見のいい病院」それぞれが機能を存分に発揮できるよう医療機能分化・連携を促進

病院・病床規模の適正化、医師・急性期機能の散在解消につながる医療機能強化・規模適正化

○地域医療構想の推進(全体最適)と個々の病院の経営基盤強化(局所最適)の調和を図る、医療専門職種のリーダーを養成

救急医療や高度医療に責任を持って対応する「断らない病院」



地域包括ケアシステムを支える「面倒見のいい病院」

医師の地域間・診療科間の偏在解消や、医師が働きがいを持ち続けられる勤務環境の整備に取り組めます。

医師の偏在対策

○修学資金制度を活用した医師不足の診療科等に従事する医師の養成、臨床研修及び専門研修体制の構築支援を実施

○へき地で勤務する医師の確保・養成、拠点病院の運営費を補助

○へき地市町村に対し巡回診療車運営費を補助

医師の働き方改革推進

○医療機関に対し医師の労働時間短縮に向けた取組を支援

○医療勤務環境改善支援センターの運営

令和5年度予算案 627百万円
令和4年度2月補正予算案 22百万円

(55) 新型コロナウイルス感染症対策

ここまで良くなってきました

新型コロナウイルスとの戦いにおいて、**2点の基本方針**により対処しています。

①エビデンス(証拠)に基づいて対処

- ・エビデンス(証拠)を重視
- ・現場に精通した専門家の意見を施策に反映
- ・ウイルスの特性に応じた対策を実施

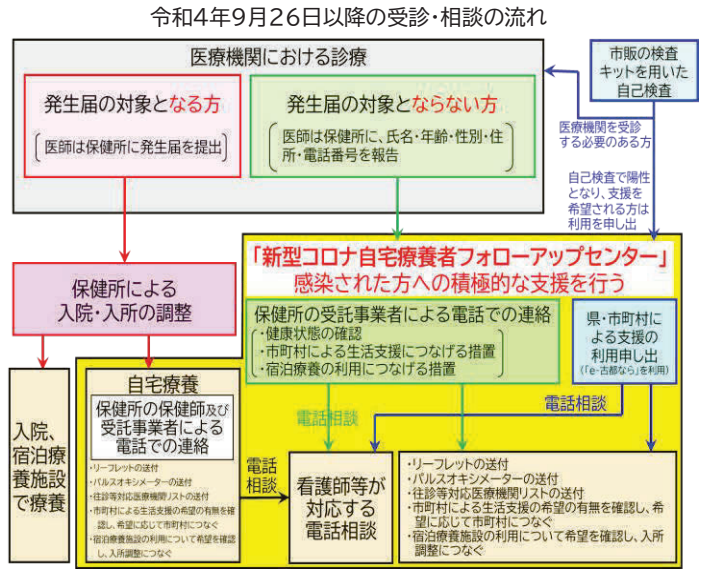
②重症者・死亡者を減らす

- ・医療提供体制の維持・確保
- ・感染された方への積極的な支援

医療提供体制の充実に重点的に取り組んでいます。

- ・入院病床及び宿泊療養施設の確保
- ・療養先トリアージ基準策定と在宅医療提供の充実
- ・自宅療養者等への連絡・相談体制の充実
- ・発生届対象外の方へのフォローアップ体制整備

奈良県独自の健康管理・フォローアップ体制を整え、感染された全ての方に**積極的に療養者を支援**しています。



もっと良くするために

「**県民の命を守る**」ことを最重点の目標とし、「**基本的な感染防止対策の徹底**」と「**安心できる医療提供体制の維持・確保**」により、**社会・経済活動と日常生活の維持との両立を進めます**。

○療養先トリアージ基準の運用

療養先トリアージ基準

新型コロナの治療のために入院していただく方

新型コロナによって、酸素飽和度が93%以下に低下している場合や呼吸苦の症状があるなど、入院して速やかに**酸素投与等の治療**が必要な方

基礎疾患の治療等のために入院していただく方

妊婦の急変時対応や、人工透析、外傷・持病の悪化による治療など、**新型コロナ以外の傷病のための入院治療等**が必要な方

自宅等で療養していただく方

高齢や基礎疾患がある方を含め、自宅等での経口治療薬や抗ウイルス薬、中和抗体薬等の投与によって、重症化を防ぐことができる方

新型コロナ無症状で即時の治療が必要のない方…**自宅等で経過観察**

○医療機関、自宅及び高齢者施設での医療提供の充実

○クラスター対策の推進

○ワクチン接種の促進



パルスオキシメーター



実地指導(クラスター対策)



ワクチン広域接種会場

令和5年度予算案 8,647百万円
令和4年度2月補正予算案 22,441百万円

(56) 医療費適正化

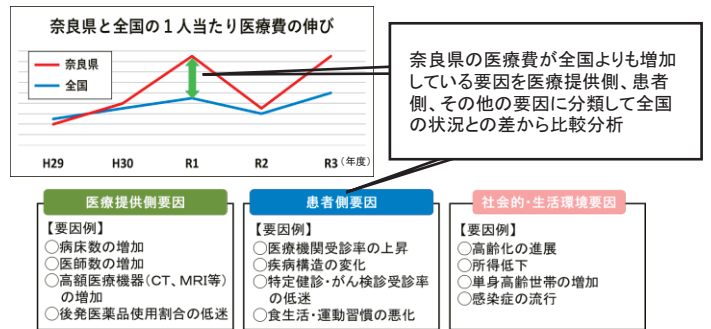
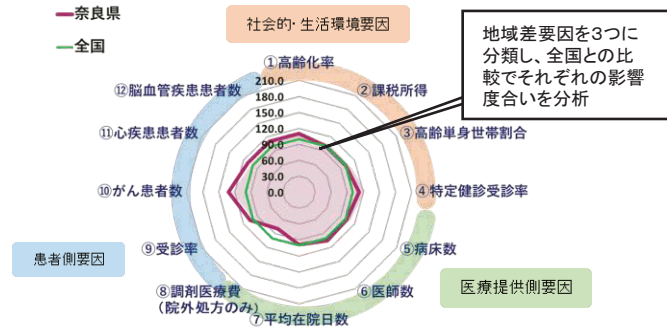
ここまで良くなってきました

令和5年度の**医療費目標** 4,813億円(医療費適正化計画期間前(平成29年度) 4,745億円)

- 医療費適正化計画で医療費推計を「目標」として設定
- 医療費を地域差(都道府県・市町村)、県全体の増加要因の2つのアプローチにより分析

○地域差分析
都道府県や市町村の医療費と関係のある因子を比較分析し、医療費の地域差要因を特定

○増加要因分析
医療提供側・患者側・その他の要因に分類して全国と比較分析し、医療費の増加要因を特定



専門機関と連携して**地域差分析**と**増加要因分析**を進め、その分析結果と手法を保険者等とも共有し、**医療費適正化の取組**に活用しています。

もっと良くするために

地域差分析、増加要因分析の2つのアプローチによる**医療費分析**をさらに**深化**させ、**第3期医療費適正化計画の目標達成に向けた取組**に活用するとともに、**令和5年度の第4期医療費適正化計画策定**につなげます。

○医療費分析の深化

専門機関と連携し、地域差分析、増加要因分析をさらに深化させ、要因と課題を明確化



○地域差分析

要因別の医療費への寄与度を明らかにすることにより、医療費の地域差に影響する有力な要因を特定

○増加要因分析

本県の疾病構造を踏まえ、SCR(診療行為別の多寡)を活用した分析を行うことで、医療費増加に影響する有力な要因を特定

分析結果・手法の活用

○第4期医療費適正化計画の策定

第3期計画の医療費適正化取組と医療費実績を分析し、取組の効果を検証

第4期計画の精緻な医療費推計と適正化効果額を算出し、医療費目標を設定

医療費目標を達成するための効果的な取組を検討

第4期医療費適正化計画を策定し、計画を着実に実行していくことで、**持続可能な医療保険制度の確立**を図っていきます。

令和5年度予算案 17百万円

(57) 地域包括ケア・在宅医療の充実

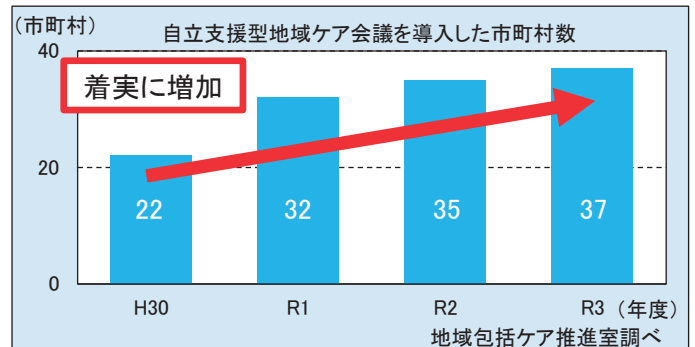
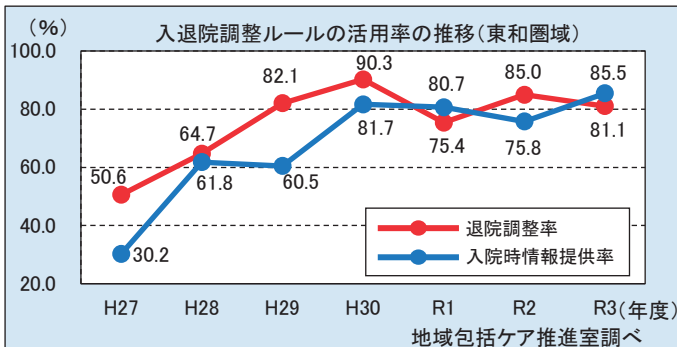
ここまで良くなってきました

病院への入退院と在宅療養・介護の連携をスムーズに行う「入退院調整ルール」づくりの調整を進めた結果、令和3年4月から全市町村で運用されています。

高齢者等の生活課題の解決や自立支援の方法を検討する「自立支援型地域ケア会議」の開催を支援した結果、令和3年度末時点で37市町村で導入されています。

- 先行して取り組んだ東和圏域では、H27年度に入退院調整ルールを策定し、H30年度以降、高い水準で推移

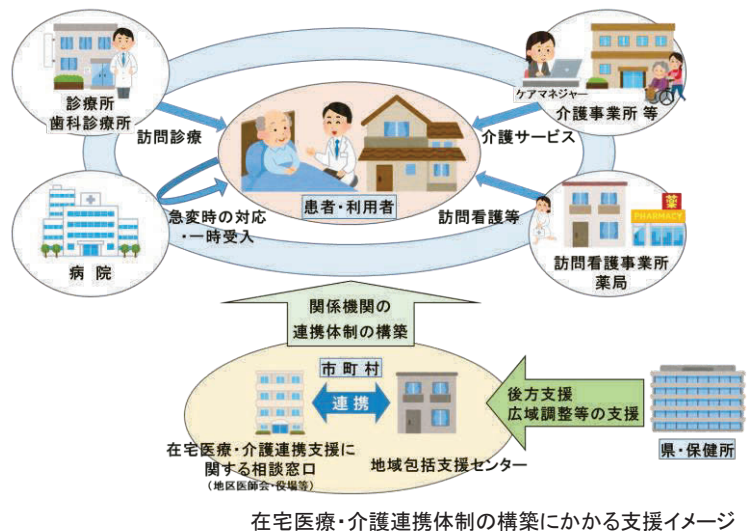
- 自立支援型地域ケア会議のノウハウやポイントを盛り込んだマニュアルを作成(R元年)



もっと良くするために

在宅医療・介護の連携など、高齢者の生活を支える仕組みづくりをさらに推進します。

- 在宅医療・介護連携の更なる充実を促進
- AIを活用した高齢者支援システムの構築
- 在宅医療の取組の支援
- 認知症施策の推進
- 介護予防の推進
- 市町村が実施する地域支援事業の経費負担



南和地域において、地域特性を踏まえた地域包括ケア・在宅医療の充実を図ります。

- 南和地域における複雑化・複合化した課題の解決に向けた相談支援体制の構築
- 介護予防の推進
ICTを活用した地域リハビリテーションの推進

令和5年度予算案 1,083百万円

(58) 県立医大の移転、医大病院施設・新外来棟の整備

ここまで良くなってきました

県立医科大学の新キャンパス先行移転分(教養教育部門及び看護学科の施設)の整備を実施しています。

○整備コンセプト

藤原京をモチーフとして、奈良への愛着を醸成し、奈良県立医科大学ならではの医学教育を实践する場にふさわしい姿を具体化

○R4年度は、R3年度に引き続き造成工事を行い、新たに建築工事に着手

新キャンパス継続整備及び県立医科大学附属病院新外来棟整備において必要な機能等について検討しています。



新キャンパス敷地



現キャンパス敷地

もっと良くするために

令和7年度中の移転・開学に向けて、造成工事及び建築工事を進めます。

○新キャンパスの造成工事及び建築工事等を実施

令和3年度～令和5年度:造成工事

令和4年度～令和6年度:建築工事

現キャンパス及び県立医科大学附属病院の機能充実を進めます。

○令和13年頃の新外来棟竣工を目指し、整備基本計画策定等を実施

○現キャンパスの耐震応急工事

令和元年度～令和6年度:耐震応急対応工事

※新外来棟は、現キャンパス敷地の南側に設置



新キャンパス先行整備の整備イメージ



新外来棟等附属病院の整備イメージ

令和5年度予算案 13,235百万円

(59) 西和医療センターの移転・再整備の検討

ここまで良くなってきました

西和医療センターは、西和地域における中核病院として、循環器疾患や小児科をはじめとする二次救急の受け入れにおいて重要な役割を果たしています。一方で、建設から約40年経過し、施設の老朽化が進んでおり、高齢化や人口減少が進む中、**将来に向けた西和医療センターの機能や運営のあり方について検討**しています。

OR4年度は、基本構想を策定し、全体方針、部門別計画、災害や感染症への対策計画、施設整備計画、事業収支計画の検討など、整備基本計画の策定作業を実施

- ・新西和医療センターがめざす姿
〈基本コンセプト〉重症急性期を担う基幹病院
- ・整備の検討
現地建替と移転建替を比較検討し、公共交通機関によるアクセスに優れる等メリットが大きいJR王寺駅南側への移転建替を基本として検討



西和医療センター移転要望書の受取(R4.9.28)

もっと良くするために

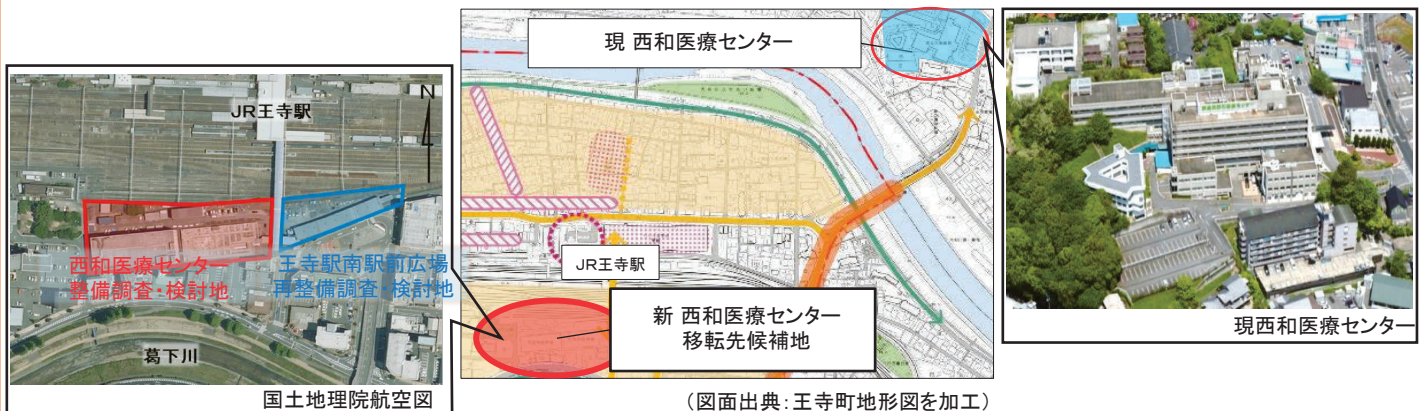
病院機構と連携して、**JR王寺駅南側への移転・再整備に向けた取組**を進めます。

○令和5年度までに整備基本計画を策定

- ・診療部門別基本計画、施設・設備整備計画、収支計画等の検討

○移転建替に向けた調査を実施

- ・用地取得に必要な用地測量、補償調査等
- ・新病院へのアクセス機能確保等に関する調査・検討



○新西和医療センターについて令和13年頃の開院を目指した取組を実施

病院本館南病棟の耐震応急対応のための工事を行います。

令和5年度予算案 163百万円

16. 福祉の充実

(60) 日本一福祉の進んだ地域を目指す「福祉の奈良モデル」の構築

ここまで良くなってきました

「福祉の奈良モデル」の考え方に基づく取組を実践するため、令和4年3月に「奈良県人と人及び人と社会がつながり支え合う地域福祉の推進に関する条例」を制定するとともに、「第4期奈良県地域福祉計画」を策定し、市町村と協働・連携して包括的な支援体制の整備に取り組むこととしました。

令和4年10月には、葛城市、宇陀市、田原本町と「人と人及び人と社会がつながり支え合う地域福祉の推進にかかる協働・連携に関する包括協定」を締結し、対話を通じて、市町村の実情に応じた、包括的な支援体制の整備に向けた取組を先駆的に進めています。

- 市町村向けトップセミナーを開催し、「福祉の奈良モデル」構築に向けた機運を醸成
- 市町村における福祉の奈良モデルの構築に向けた取組の実践を支援
- コミュニティソーシャルワーカーの養成と活動を支援



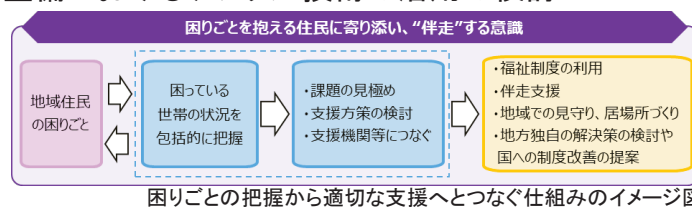
市町村向けトップセミナー（左：基調講演、右：聴講の様子）

もっと良くするために

引き続き、「福祉の奈良モデル」の構築に向けた機運の醸成を図り、包括的な支援体制の整備に向けた協働・連携の取組を県内全域に広げていきます。

協定を締結した市町村と対話を重ね、包括的な支援体制の整備を進めます。

- 市町村向け説明会の実施等による、包括的な支援体制の整備に向けた機運の醸成
- 市町村における福祉の奈良モデル実践支援
 - ・市町村との協定締結
 - ・市町村の実務者による意見交換会の実施
 - ・市町村における包括的な支援体制の整備にかかる取組への財政的支援
 - ・コミュニティソーシャルワーカーの養成及び市町村における活動支援
- 「福祉の奈良モデル」推進フォーラムの開催
- 包括的な支援体制の整備におけるデジタル技術の活用の検討



さらに、福祉の奈良モデルの支援の仕組みを基本として、障害のある人やその家族等に寄り添いつながり続ける支援体制の基本的な考え方や、既存の資源の活用方針などについて定める「奈良県障害のある人及びその家族等に生涯にわたりつながり続ける障害福祉の推進に関する条例」を令和5年3月に制定し、障害福祉分野における支援のより一層の推進を図ります。

令和5年度予算案 39百万円
令和4年度2月補正予算案 7百万円

(61) 重症心身障害児(者)の地域生活の支援

ここまで良くなってきました

重症心身障害児(者)や医療的ケア児(者)が身近な地域において生涯にわたり支援を受けられる体制構築に向けた取組を実施しました。

- 「奈良県重症心身障害児者支援センター」を設置(R3年1月)
- 「奈良県重症心身障害児等の地域生活の支援に関する条例」を施行(R3年4月)

【R4年度の取組】

- ・重症心身障害児(者)や障害福祉サービス事業所等へアンケートなどを実施し、双方の実態を把握
- ・障害福祉サービス事業所向けに訪問指導および研修を実施し、支援人材等を育成
- ・「奈良県障害者総合支援センター」において、重症心身障害児等向け放課後等デイサービス、居宅訪問型児童発達支援を開始

もっと良くするために

利用者側と提供者側、双方の実態を踏まえ、重症心身障害児(者)とその家族が、身近な地域で安心して自分らしく暮らし続けられる社会の実現に向け、地域生活を支援する施策を推進します。

- 利用者側と提供者側のマッチングの仕組みづくりに向け、身近な地域における相談・直接的支援体制を構築するため、「重症心身障害児者地域支援センター」の地域ごとの設置について関係機関と検討



- 重症心身障害児者や医療的ケア児者の居場所の確保への支援を実施
 - ・重症心身障害児者や医療的ケア児者の受け入れに対応できる福祉人材等の育成
 - ・日中の居場所の一つである短期入所施設等へのサービス提供体制への支援

令和5年度予算案 30百万円

(62) 出所者の更生・就労支援

ここまで良くなってきました

令和2年4月に「奈良県更生支援の推進に関する条例」を施行しました。

【目的】

- ・国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ
- ・誰もが地域の一員として包摂される社会の実現

【手法】

- 更生支援に関する施策を一体的かつ効果的に実現するため、「一般財団法人かがやきホーム」を設立して、次の事業を実施
- ・罪に問われた者等を雇用、就労の場を提供
 - ・住居を貸与
 - ・職業訓練、ソーシャル・スキル・トレーニングなどの社会的な教育の実施

令和2年7月、条例に基づき「一般財団法人かがやきホーム」を設立し、これまで6名の出所者を雇用しました。

- 五條市森林組合での林業研修に加え、R4年から五條市青ネギ生産組合での農業研修を開始
- 法務教官等の専門家による社会的な教育や地元との協力を得て社会奉仕活動を実施
- 五條市内に住居を確保
- 財団職員によるきめ細かな相談体制の構築



林業研修



社会的な教育

もっと良くするために

更生支援の取組をさらに拡大し、充実させるため、「一般財団法人かがやきホーム」において、新たな就労の場の開拓、教育内容の充実等を行います。

○「一般財団法人かがやきホーム」の運営等

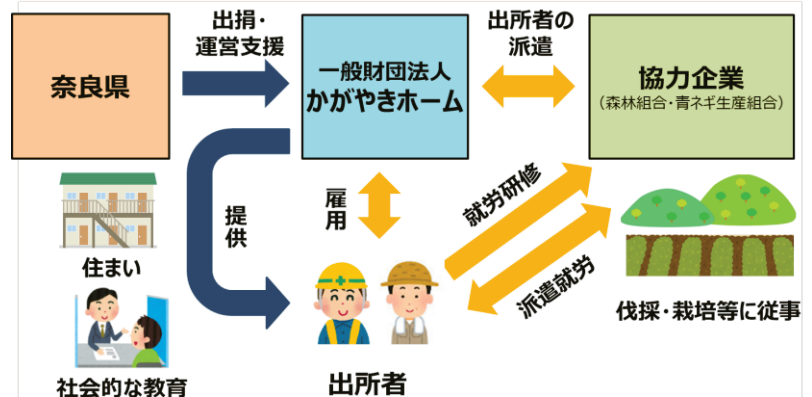
- ・直接雇用した出所者に対し、協力企業での就労研修や派遣就労を実施
- ・サービス業、福祉等の新たな就労の場を開拓
- ・依存症などを含む個人の生活歴に応じた社会的な教育等を充実
- ・相談員による生活相談等の実施

○地域生活定着支援センターの運営

高齢者や障害者等で福祉的な支援を必要とする矯正施設退所予定者、被疑者等の社会復帰を支援

○保護観察対象者の県直接雇用

や協力雇用主向けのセミナー開催等



取組のスキーム

令和5年度予算案 90百万円

17. だれもがいつでもどこでもスポーツできる環境づくり

(63) だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる地域づくり

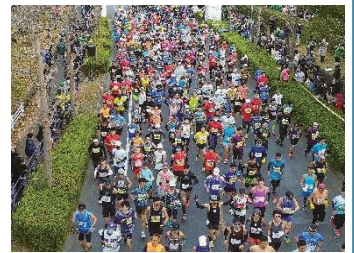
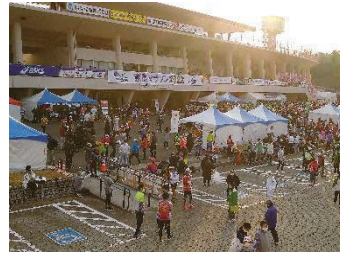
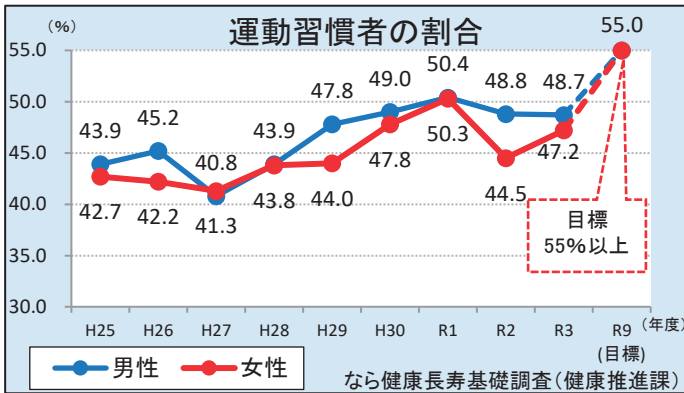
ここまで良くなってきました

総合型地域スポーツクラブの育成支援や奈良マラソンなど参加型スポーツイベントの開催等により、1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上実施している人の割合(運動習慣者の割合)は、令和元年度に50%を超えました。

健康寿命日本一を目指す奈良県では、「だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり」に取り組むことで県民の健康増進を図っています。

○総合型地域スポーツクラブを全市町村に設置(R5年1月現在65クラブ)

○H22年から始まった「奈良マラソン」は冬の風物詩として定着



奈良マラソン2022

もっと良くするために

「生き生きと安心して健やかに暮らせる奈良県」を目指し、令和5年3月に「誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる地域づくりの推進に関する条例」を制定するとともに、「第2期奈良県スポーツ推進計画」(令和5年度～令和9年度)を策定します。

スポーツ参加の推進・スポーツに親しめる環境づくり

- 気軽にスポーツに参加できる環境、きっかけづくり
- 子どものスポーツ促進
- 障害者スポーツの推進



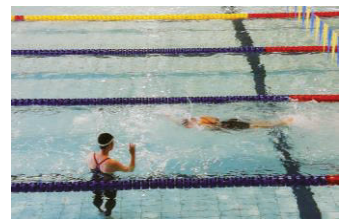
モルック体験



ツアー・オブ・奈良まほろば



少年少女野球教室



パラリンピックタレント発掘・育成

スポーツの推進を支える人材の育成

○指導者講習会



幼児運動・遊び指導者の講習会

○総合型地域スポーツクラブの育成・充実



安全管理講習会



交流大会

○運動の普及・啓発



中山間地域での運動教室

令和5年度予算案 1,137百万円 [債務負担行為 7,352百万円]

ここまで良くなってきました

令和4年8月に奈良県準備委員会の第2回常任委員会、第2回総会を開催し、大会の準備総合計画などが決定される等、**令和13年の大会開催に向けた準備が着々と進められています。**

○総務企画専門委員会、競技運営専門委員会を設置、運営(計4回開催)

第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会奈良県準備委員会



第2回総会



第2回常任委員会

大会開催に**必要なスポーツ施設の整備を目指し、検討を進めてきました。**

○橿原市とR4年10月に「覚書」を締結し、事業推進のための協議を開始

○R4年10月に「大和平野中央田園都市構想」で川西町、田原本町に整備する施設を発表



川西町
テニス場整備イメージ



田原本町
球技専用スタジアム整備イメージ

もっと良くするために

円滑な大会開催のための準備はもとより、**令和5年3月制定の「誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる地域づくりの推進に関する条例」に基づき、大会を契機としたスポーツ推進を支える人材の育成やスポーツ拠点施設の整備など、持続的なスポーツ振興や県民の健康増進、地域活性化につながる環境づくりを進めます。**

○奈良県準備委員会の運営

- ・大会基本構想の検討
- ・競技会場の選定
- ・競技役員養成支援



市町村、競技団体等向けのセミナーを開催(大淀町あらかしホール)

○トップアスリート等の養成

○開催に向けた機運の醸成

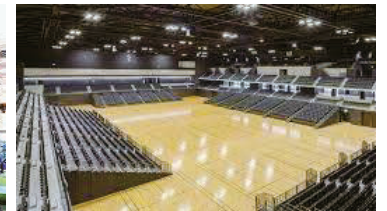
○畝傍山周辺エリアにおける整備(R11年)

第1種陸上競技場、多機能複合型アリーナ等の整備のための測量・調査

○大和平野中央田園都市構想における整備(R12年)
奈良県にふさわしい機能、規模の検討と民間活力の導入



陸上競技場
(R4栃木国体総合開会式)



アリーナ(総合体育館)

令和5年度予算案 244百万円

(65) まほろば健康パークの機能強化

ここまで良くなってきました

浄化センター公園を再整備し、平成26年度に「まほろば健康パーク」としてリニューアルオープンしました。年間30万人以上(令和3年度)の皆様にご来園いただいています。

○スイムピア奈良50m屋外プールの観客席・膜屋根等整備(R3年6月完成)



スイムピア奈良(屋外プール)



屋外プール(観客席・膜屋根)



選手控室

○その他施設充実



スイムピア奈良(屋内プール)



ファミリープール



テニスコート



子ども広場

もっと良くするために

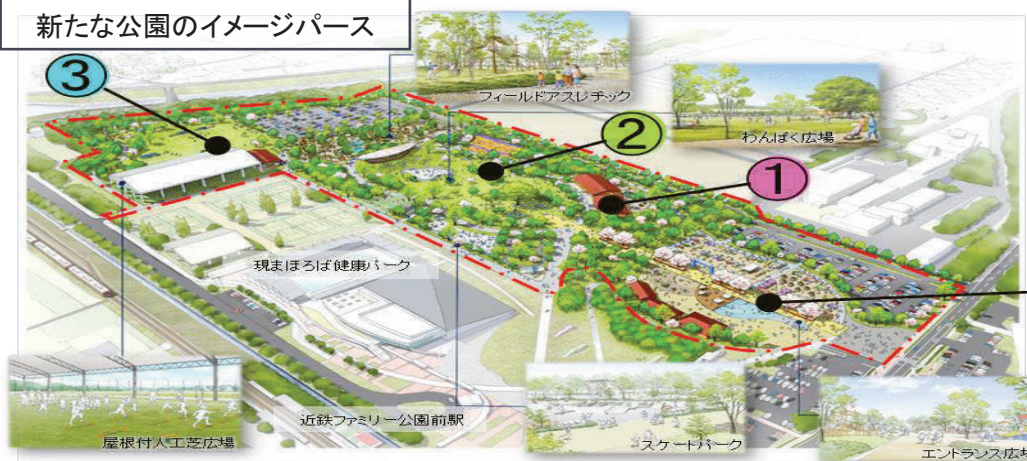
隣接地(10.8ha)において、令和9年度の開園をめざし、民間活力導入による「みんなが憩い楽しみ、子どもが遊びや運動を通して成長する公園づくり」に取り組みます。

○民間事業者との事業契約(R5年度～R23年度)

◇ゾーン区分

- ① 乳児・幼児が遊びを通して成長できる施設ゾーン<6ヶ月～5歳>
- ② 子どもが遊びや運動を楽しみ上達する施設ゾーン<3歳～10歳>
- ③ 子どもが目標に向かって取り組むスポーツ施設ゾーン<8歳～15歳>
- ④ エントランスゾーン

新たな公園のイメージパース



事業者募集で示す施設毎の要求水準に基づき、民間事業者がノウハウを活かした提案を行うものであり、施設配置等は提案内容により変更する可能性があります。

○開園に向けた関連施設整備

○周辺プロジェクト(中央卸売市場再整備事業等)との連携検討

令和5年3月に「誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる地域づくりの推進に関する条例」を制定するとともに、「第2期奈良県スポーツ推進計画(令和5年度～令和9年度)」を策定します。

令和5年度予算案 80百万円

[債務負担行為 7,352百万円]